

令和6年度（2024年度）厚生常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和6年（2024年）8月23日（金）
- 2 視察者 厚生常任委員会（7名）
高島和男（委員長）、堤泰之（副委員長）、溝口幸治
西聖一、岩本浩治、本田雄三、杉蔦ミカ

3 視察の概要

(1) 熊本県立清水が丘学園（熊本市北区）

清水が丘学園は、不良行為をなし、又はなすおそれのある児童及び家庭環境その他の環境上の理由により生活指導等を要する児童を入所させ、個々の児童の状況に応じて必要な指導を行い、その自立を支援することを目的として、児童福祉法に基づき県が設置する児童自立支援施設である。

平成30年度に策定した同園の整備方針に基づき、家庭的養育環境の確保及び施設機能の向上を目的に現在工事等を実施しており、令和6年7月から新児童棟の供用を開始している。

今回の視察では、児童自立支援施設の運営や施設整備について説明を受け、説明後に新児童棟を見学した。

同園からは、「今年度特に力を入れているのは、児童の権利擁護の推進。これまでも意見箱の設置や、3カ月に一度の処遇会議において、児童の意見表明の場を設けたりしてきたが、今年度は、生活アンケートの実施も予定しており、できるだけ児童の意見・要望を吸い上げていきたい。」との説明があった。



(2) 熊本県動物愛護センター「アニマルフレンズ熊本」（宇城市）

動物愛護センターでは、「命を大切にし、やさしさあふれる人と動物が共生するくまもと」の実現を目指すための拠点として、令和6年3月に開所した。

同センターでは、犬猫の譲渡会や地域猫活動の推進（飼い主のいない猫の避妊去勢手術の無料実施等）、県民への愛護啓発・教育などを行っている。

今回の視察では、動物愛護の推進について説明を受け、説明後に施設を見学した。

同センターからは、「旧センターでは、收容する犬猫の増加による過密な收容や、殺処分を前提とした施設であるため、適正な個体管理ができないなど、

動物愛護の観点から課題があった。また、旧センターの体制では、十分な動物愛護業務ができず、獣医療も外部に依頼していたため、事務負担及びコストが大きく、適時適切な実施に課題があった。これらの課題を解消するため、新たな動物愛護拠点施設「アニマルフレンズ熊本」の開設となった。」との説明があった。



(3) 社会福祉法人 慈愛会 特別養護老人ホーム 千寿園（球磨郡球磨村）

千寿園は、要介護3～5と認定された要介護者が入所する介護老人福祉施設であり、令和2年7月豪雨災害により1階部分が水没し、14名の方が亡くなった。

被災後、人吉市内の仮設施設で事業を継続しながら施設の移転復旧工事が行われ、令和6年1月28日から移転後の新施設において事業を再開。令和2年7月豪雨における球磨村の創造的復興のシンボルとなる施設となっている。

今回の視察では、高齢者施設における災害対応や施設整備について説明を受け、説明後に施設を見学した。

同園からは、「令和2年7月豪雨の被災体験を踏まえ、新施設の整備には、旧施設より広い垂直避難スペースの確保など、様々な工夫を施した。

また、運営上の課題として、球磨村の高齢者人口はピークアウトとなり、人口自体が減少していく中で、経営は一層難しくなっている。地域密着型は村民の利用が原則であり、例外として市町村間で協議すれば一部村外利用も可能となっているが、人吉球磨圏域まで自由に入所が可能とするなど柔軟な対応をお願いしたい。」との説明があった。

